

障がい者アスリート就労の現状と課題

生涯スポーツゼミナール 1216100 鈴木康介

1. 研究の動機及び目的

近年、健常者と障がい者との共生社会に注目が集まっている。事実、施設のバリアフリー化の増進やインクルーシブ教育システムの強化など共生社会の形成に向け、様々な取り組みが行われている。このことにより障がい者の社会での活躍がさらに期待される。その中で障がい者アスリートはこの社会の変化の中でどのように就労をしているのであろうか。仕事だけでなく競技に集中したいアスリートに対して環境を整えていくことも共生社会の形成において重要であると考えられる。そこで、本研究では、障がい者アスリートを対象に現在の就労状況を踏まえ、今後の障がい者アスリートの就労に関する課題や展望を明らかにするとともに、どうしたら共生社会の形成に繋がるかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【調査概要】

本研究では現役で活躍する社会人の障がい者アスリートを対象に調査を実施した。競技種目および障がい種の異なる人を対象としていたため、「ゴールボール」「アルペンスキー」「車椅子バスケットボール」「パラ陸上」「パワーリフティング」の5人の選手に依頼をした。調査時期は、令和元年度9月から11月にかけてであり、調査方法は、質問事項をまとめたものを持参し、選手と直接インタビュー調査を行った。

【調査内容】

本調査では下記の10項目により調査を行い、調査の中に必要であると判断した質問項目を加えて行った。

- ①障がい種及びいつ障がいを負ったのか
- ②競技歴
- ③アスリートとして今も続けている理由
- ④学校卒業後の進路、職歴
- ⑤普段の練習状況
- ⑥仕事と練習のバランス
- ⑦今の職場のいいところ
- ⑧収入面
- ⑨今の職場の課題、希望
- ⑩今後の不安

3. 主な結果と考察

全体の調査結果から、現在の職場において生活面及び競技面で満足していることがわかった。障がい者アスリート雇用を始めたばかりの企業が多くあり、そのため制度や体制が整っていないところも多くあるように感じた。企業とアスリートが互いに情報を共有しながら理解を深め、調整しながら創りあげていくことが必要であると考え。また今後について、引退後を不安視している人は少なく、それぞれこれからのイメージができている人も多くいることがわかった。東京 2020 パラリンピック後に関しては、今よりもアスリート雇用に対する予算が少なくなることや環境が厳しくなることは懸念していることがわかった。しかし、不安を感じている人は少なく、これから自分がどのようにしていくべきかをイメージしながら東京 2020 パラリンピックや北京 2022 パラリンピックに向けてトレーニングに励む選手が多いことがわかった。今障がい者スポーツや障がい者雇用に対して日本の動きがあるからこそ、不安ではなく自信を持って、競技に取り組んでいると考えられる。そのためにパラリンピックの開催が決まってから動き出した障がい者スポーツへ施策や障がい者雇用への各企業の取り組みなどの共生社会の実現に向けた様々な施策の流れを止めることなく、今後さらに発展させていくことが必要であると考えられる。

4. 結論と今後のための展望

この研究を通して、障がい者アスリートが企業に対し、満足して就労状況していることがわかった。まだ障がい者アスリートの雇用が始まったばかりであるため、それぞれの企業で多少の課題はあるが、これから互いに理解しながら発展させていくことで改善が図られると考えられる。今回の調査では調査対象が男性のみであったこと、障がい種が身体障がいのみであったこと、国際大会の出場経験がある選手のみであったため、条件が限定的になってしまったことが懸念材料としてあげられる。他の広い条件の障がい者アスリートに関して今後の研究により明らかにされ、障がい者の就労に対する満足度を高め、よりよい共生社会の実現と発展に期待する。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を進めるにあたり、多くの方々にご協力をいただきました。心より感謝の意を表させていただきます。研究対象とさせていただいたアスリートの方々お忙しい中快く調査の依頼を承諾してくださったことで調査を行うことができ、様々な考察をすることができました。また調査にあたりアスリートにアポイントを取ってくださった多くの友人のおかげで調査を行うことができ、本論文を執筆することができました。そして、担当指導教員である黒須先生にはテーマの設定から完成までご指導いただき本当にお世話になりました。提出期限ぎりぎりまで温かいご支援があったからこそ完成することができました。大変感謝しております。同じゼミナール生の存在があったことで卒論を進めるモチベーションへと繋がり、特にゼミ長の支援は非常にありがたかったと強く感じております。本当にありがとうございました。